

読者のページ

区民要望と行政

緑区 渡辺悟一

今、どこの自治体でも「市民本位の市政」を前面に打ち出しています。行政への市民参加、住民のニーズに応えた市政。

はたして、うまく機能しているのでしょうか。

横浜市では、陳情、市長への手紙、それに各種の住民説明会などで住民の声を広く聞いています。施設建設の委員会に各団体の代表者を加えてもいます。区民会議というものもあって、やる気があれば市へ直接意見を言い、働きかけることもできます。区によっては、(私のところ)がそうですが、「地域のつどい」なるものを開き、区内各地

へ行政側が出向いて住民の意見・要望を聞きに回っているとこもありません。また今後、情報公開制度もスタートするでしょう。こうみていくと、制度としては充実しているようです。

それでは、こうして集めた区民の要望はどこまで行政に反映されているでしょうか。どちらかと言うと、初めに行政の立案した計画があり、裏づけとして区民要望が使われている気がするのですが、もともと、住民の要望・意見の中には視野が地域に片寄り、個人主義的すぎるものもあり、決まるものも決まらなくなる場合もあるというの事実ですが……。総論賛成、各論猛反対という具合。

区民の要望をどこまで重視するか、ということについては、区がどこまで重要視されているか、ということになるのではないのでしょうか。(行政内部の調整って本当に難しいですね) 本来なら、市議員の方々が住民の要求を把握し、市政に反映させるといのがオーソドックスな方法ではないかと思いますが、それだけでは不十分とい

うことでしようね。市民参加……。これは、役人の「バランス感覚」を武器に、相当の覚悟のもと、住民と育てていかなければならないでしょう。大変です。これは。

家事と頭脳

泉区 山田裕子

母が倒れた。突然の病だった。さいわい入院には至らなかったが、当分は安静にしていなくてはならない。当然、通勤時間が一番短い女性である私が代理主婦となっている。

家事というものは——兼業主婦の場合は特に——同時進行でやらないと片付かない。食事を作りながら風呂をわかし、食器を洗いながら洗濯機を動かす、という具合だ。この「ながら作業」はかなり頭脳を使う。それも、楽しい、嬉しい、可笑しいなどという感情とは無縁の処で頭を働かせなくてはならない。これが、同じ頭を使う作業でも読書と大きく異なる点だ。なぜ、ここで唐突に読書が登場するかというと、我が家では家事から解放される度合いが大

きい者ほど読書量が多い、という現象があるからだ。家事と仕事で頭を使ったあとではとても文章など読む気にならない。本を読んでいる人を見ると、文章が頭に入っていくだけの余裕があるのだなとうらやましい。と同時に、家事に費される頭脳労働の量に驚いてしまう。

最近家事を助ける道具類がだいぶ発達してきているが、このことは、家事に使う頭脳労働を軽くする。その分主婦が別のことに頭を使うと、社会の動きも変わることは想像できる。問題は何に頭を使うかだ。欧米のように地域での政治活動が活発になるかも知れない。あるいは「主婦大学生」がふえる可能性

△あとがき▽
華麗なクラシック音楽のリズムに乗って新型カーが今日も街にあふれ出る。路面電車は横浜の街から消えて久しい……。けれども、当室の「市民意識調査」結果をみて、バス・鉄道・地下鉄など公共交通の充実を求める声が根強くあることがわかる。横浜の街づくりのアキ

もあるだろう。家事から頭脳労働を解放する流れは既にできているから、近い将来、主婦層を中心とする社会的ムーブメントが出現するに違いない。

今、私は疲れた頭をふり絞ってこの文章を書き終えようとしている。あとは、ほんの少し家事から頭脳を解放して、G・マルケスの『百年の孤独』を読みたい。

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで(電話六七一一二〇二九)。
この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。七〇〇字以内。

レス腫である公共交通網を体系的に整備充実することは緊急の課題であろう。しかし、そこには、採算面や技術面など多くの難題がつきまとう。

近年、「交通権」という概念が日本でも注目され出したが、都市交通問題を解決する上で、有効性を発揮しうるのか、今後の展開に注目したい。△長尾▽